

『学科専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈進学生・編入学生の受け入れ方針〉

1. 英語文化コミュニケーション学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

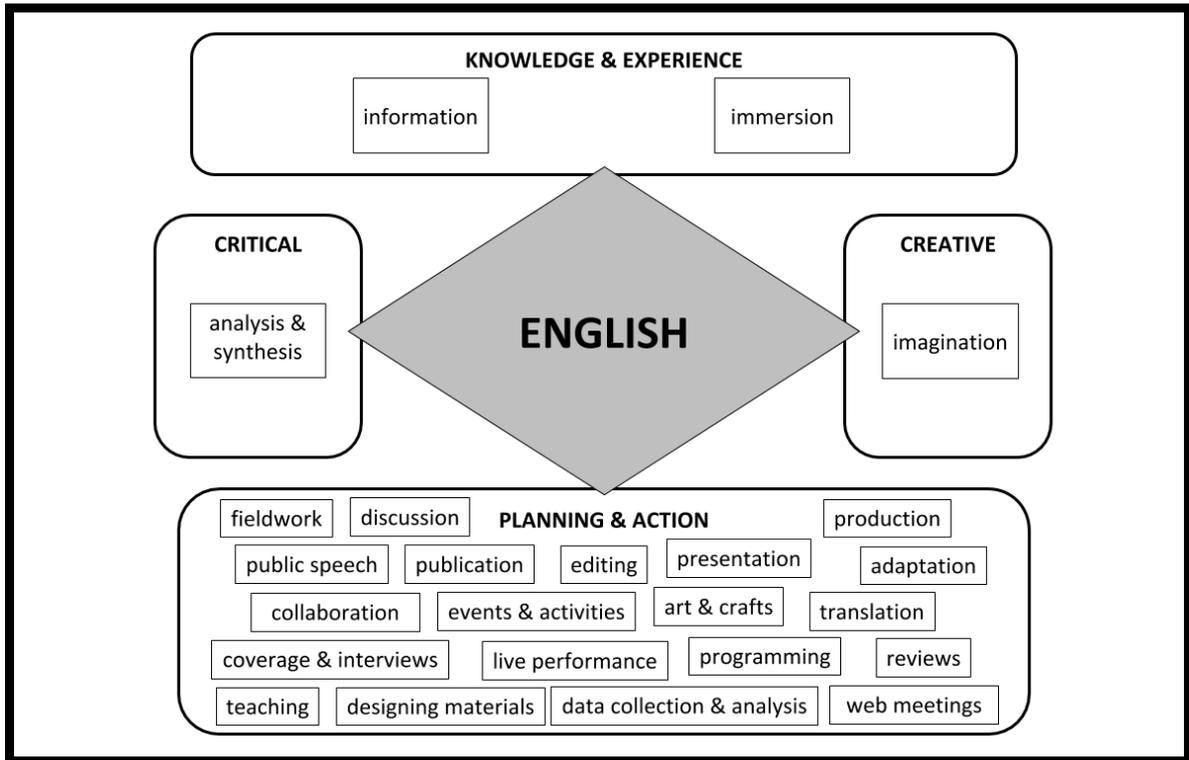
英語文化コミュニケーション学科は、学科の用意する様々な授業での学習・研究の経験を積み重ねた結果として、卒業時に次のような三種類の力を身につけていることを期待します。

1. 過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会について、的確な理解と判断をする力。そのために必要な、豊富な知識と柔軟な英語運用力。
2. 物事を筋道立てて英語で説明したり、場や状況に応じて有効で効果的なコミュニケーションが行える発信力と表現力。そのために必要な批判的思考力と豊かな想像力。
3. 多様な人や社会がつながってグローバル化する世界の一員として、積極的かつ創造的に行動できる計画力・指導力・協働力。

英語コミュニケーション学科の卒業生には、生涯を通じて、どのような立場や状況に置かれても、必要に応じて上記三種類の能力を発揮できる、次のような働き手となることを期待します。

1. 普段から身近な場所や機会に自分の英語体験を豊かに積み重ね、様々な機会に様々な媒体を通して得られる情報に対して的確な理解・判断ができる人。
2. 様々な媒体を柔軟に活用して積極的かつ創造的に発信や表現のできる人。
3. 計画力・指導力・協働力を発揮して、積極的かつ創造的に人や社会に働きかけられる人。

なお、英語コミュニケーション学科は上記の三種類の力を、英語を軸として具体的にどのように身につけ、深めていけるかを探る指針として、次のような「コンパス」を作っています。



2. 英語コミュニケーション学科の教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

英語コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力を身に着けるために、分野系列と時系列の二つの視点から以下のようにカリキュラムを編成しています。

(分野系列)

「過去から現在に至るまで、英語で培われてきた、さらには英語で新たに開かれていく、世界の多様な文化・社会」という幅広い領域を研究対象にしながら、英語を軸として相互に有機的に結びつき、支えあう研究推進母体として、英語コミュニケーション学科は「土台」「三つの柱」「屋根」という「家」の構造になぞらえた三つの分野系列を持っています。

1. English Studies [英語研究 = 三つの柱]

英語コミュニケーション学科では「英語学・英語教育学」「英米文学」「メディア・コミュニケーション」という三つの専門的な英語研究の分野（=柱）を立てて上記の幅広い研究領域をカバーし、卒業論文に至る一人一人の学生による英語の世界探求を後押しします。

1. 「英語学・英語教育学」の柱では、英語という言葉そのものの性質や、運用のされ方、ならびに英語の習得や学習の方法について研究します。
2. 「英米文学」の柱では、古典から現代にいたる英語による文学作品について研究するほか、創作や翻訳・翻案などの主体的創造も探求の対象とします。
3. 「メディア・コミュニケーション」の柱では、マスメディア、ソーシャルメディアなど現代社会に密着した英語コミュニケーションの実態を研究するほか、私達を取り巻く社会問題や環境問題も研究対象とします。

II. Communication Skills [英語コミュニケーション = 土台]

この系列では「読む・書く・話す・聴く」という英語の運用能力をトータルに訓練し、あわせてコンピュータ、インターネットを学習・研究に活用する技術も習得します。

III. Cultural Perspectives [英語文化 = 屋根]

「英語文化」の系列では、英語が実際に運用される様々な具体的「世界」のうち、比較的身近なものを取りあげて、上記の「三つの柱」だけではカバーできない、また「三つの柱」の研究に直接的・間接的に役に立つ英語文化の多様な広がりや厚みを生きた体験として理解します。

「英語文化」の一つの底流として、「キリスト教」「聖書」についての知識と理解もここでおさえることができます。

(時系列)

三つの柱である専門的な英語研究の分野については、年次ごとに段階的にその研究分野の知識や研究能力を積み重ね、深めていけるよう、次の三つの分類のもとで授業科目を編成しています。

A. Introductory Courses

専門的な英語研究分野についての入門、概説等の導入コース、およびカリキュラム・ポリシーで掲げる三種類の能力の基礎を身につける「英語基礎研究」。いずれも2年次生対象ですが、1年次生にも開講しています。

B. Special Studies

3-4年次に所属するゼミの学習・研究で、英語を自由に駆使しながら論理的思考力・批評力・創造力・計画力・指導力・協働力を身につけます。4年次には、自分の選んだテーマについて主体的・計画的に研究を進め、その成果を論理的で筋道立った英語の卒業論文にまとめます。

C. Elective Courses

三つの柱である専門的な英語研究の分野について、ゼミの学習・研究以外に用意される専門研究の授業で、学科生が多様な選択肢の中から自分の研究テーマを見つける手助けをします。主に3-4年次生対象ですが、2年次生にも開講している授業もあります。

以上の2種類の系列のほか、カリキュラム編成にあたっては次の3点も方針として重視しています。

1. 英語による授業を多数用意して、学科生が日常的に英語を使う機会をできるだけ多く持てるようにする。
2. 英語の基礎運用能力が段階的に積み重ねていけるよう2年次の必修英語と英作文、および3年次の英作文の教程を有機的に関連付けて用意する。
3. 学生自身の主体的な計画力・指導力・協働力や創造性を培うために、経験・体験をとおして学習・研究をすすめるタイプの授業を積極的に用意する。

3. 英語コミュニケーション学科の進学生・編入学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

英語コミュニケーション学科に進学・編入学する学生は、卒業時までにディプロマ・ポリシーに示した三種類の能力や姿勢を身に着けることが目標になります。そのため、本学科に進学・編入学を希望する学生には次のような能力や資質が必要と考えます。

1. 英語の4技能についての「基礎力」をしっかりと身につけ、運用能力を養おうという前向きの姿勢を持っていること。
2. 読書、創作や社会貢献などの「経験の積み重ね」をしてきていること。また、自分の興味・関心に応じて、その場限りに終わらない「経験の積み重ね」を3年間じっくりしていこうという姿勢があること。
3. 積極的に新しい世界を見よう、つながろう、開こうとする「とらわれのない姿勢」と「前向きなチャレンジ精神」をもっていること。

2017年3月31日更新

2019年3月31日更新